

わたしの好きな よりい

No.161

今月号で皆さんにご紹介するのは、鉢形城歴史館の庭に咲くサルスベリです。今の季節、北東側の入り口から歴史館を訪れると、燃えるような紅い色のかたまりが目に飛び込んで来て、サルスベリの花に迎えてもらったような感じがします。特に、晴れた日には太陽の光に照らされて、一層紅い色が引き立ち実に見事です。

サルスベリは、原産国が中国のミソハギ科の落葉高木で、夏の暑い時期の7月から9月にかけて、主に、紅、白、淡い紫色の多くの花をつけます。花言葉は「雄弁」です。たくさんの花が揺れている様子を見ると、なんとなく人が話をしているように見えて来るから不思議です。

また、サルスベリの名前の由来は、長い時間花が咲き続けることから「紅い花が100日間咲く」とされ、「百日



<サルスベリ>

紅」という漢字があてられたとされています。また、木の肌が滑らかで猿もすべることから「猿滑」とも呼ばれていて、いつしか「百日紅」と書いて「サルスベリ」と読むようになったようです。その他にも、木の肌を搔くと、くすぐったようなことから「クスグリノキ」とも呼ばれるなど多くの名前をもっています。

皆さんも鉢形城歴史館に足をお運びの際は、ぜひサルスベリもご覧になってください。9月下旬ころまでは、鮮やかな紅い花が皆さんを出迎えてくれることでしょう。



わが町の



お話の達人

No.30



室岡茂子さん(本村)

私は、視覚障害のある方のために、町広報・議会だより・社協だよりなどをテープに録音する朗読ボランティアをしています。

朗読ボランティアを始めたのは、昭和62年に友人に誘われて初めてお話会の講習会に参加した時に、視覚に障害のある方のために何か役に立ちたい

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

と思ったことがきっかけです。それ以来23年間周りの人に助けていただきながら現在まで続けてきました。

朗読のポイントは、発声練習（朗読を続けていると自然に大きい声が出ます）、間（間の取り方で聞き手はその意味を想像することができます）、アクセント（同じ音でもアクセントによって違います）です。朗読は腹式呼吸なので自分の健康管理にもなります。また、年に一回視覚障害のある方たちと交流会を兼ねて意見交換会を行っています。私たちも楽しみにしていますが、利用者の方々も楽しみにして待っています。

朗読のほかにも、読み聞かせ、紙芝居、ことば遊び、ストーリーテリング（話だけをする、語り聞かせ）などを行っています。子ども達は、目を輝かせて聞いてくれます。皆さんも楽しみに待っていてくれるので、私自身も勉強をして楽しみにしています。時には聞き手ばかりではなく、みんなで群読（複数の読み手で表現すること）をしたりします。

最近、学校や図書館等で絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行うところが増えていますが、私も今まで、町の朗読の講座や県の講座を無料で受講させていただきましたので、その恩返しのため、現在は、地域ボランティアとして地域の小学校や公共の場に読み聞かせに行っております。

また、本の選び方や絵本の読みかきへの指導も行っています。本は町立図書館を利用して借りていますが、皆さんの蔵書がありますので皆さんも時には足を運んでみてはいかがでしょうか。きっと気に入った一冊が見つかると思いますよ。

